

新宮山彦ぐるーぷ第2167回

持経宿巡回整備（白谷林道の落石処理で5時間）

◇実施日 3月10日（木） 晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、村吉光夫 3名

3月6日、梶野君と2人で行仙宿に向き作業中に村吉さんから「国道の通行止めも解除されたので、3月10日に持経宿まで行く」とのメールがあった。持経宿は昨年の12月10日に行つて以後、3ヶ月間行くことが出来なかった。この間に林道の落石も相当多いことが予想され、村吉さん一人では手に負えないだろうと、相談の上二人が同行することにした。



白谷林道ゲート

落石のオンパレード

行仙宿側のR425では橋梁工事が行われていて通行に少し不

安があるので、遠回りになるが十津川村側から白谷林道へ向かった。午前9時に21世紀の森に集合、沖崎はバイクで、村吉さんは17年間愛用したホンダのCR-Vからスバルのフォレスターに乗り換えていた。新しい車で林道に乗り入れるのは今日が最初だそう

だ。
21世紀の森から白谷林道ゲートまでの国道は落石の除去も行われていてスムーズに走行できた。



大きい物はハンマーで

30分以上かかる所も

9時半にゲートを通過、森林管理局の倉庫過ぎまでは多少の荒れはあるが、車を降りて落石を除ける事も無く走行できたが、3kmを過ぎたあたりから落石のオンパレードとなった。これがこの後の5時間及ぶ落石との悪戦苦闘の始まりだった。

100〜200mの間隔でまとまった落石があり、その間にも二つ三つと子供の頭ほどの石が落ちてくる。中には道路の真ん中に小さなドラム缶ほどの岩が鎮座している箇所もあった。三人で押したが

ビクともせず、ボールを入れて試してみたが動かすことが出来なかった。村吉さんが持参した大ハンマーで少しづつ砕いて、動かせるように小さくした。上から落ちて道路中央に割れずに残っている岩は硬く、砕くのに30分近くかかった。三分の一ほどを削り落とし、やっと3人で押しして道路脇に寄せることが出来た。



硬くて割れない

ようやく持経宿

水場を点検

当初はお昼ごろには持経宿に着いて昼食、その後平治宿に向かう。と考えていたが、すでに12時を過ぎていた。

平治谷を過ぎたところで昼食にする。早々に食事を済ませ、村吉、梶野の二人に落石の処理を頼み、沖崎はバイクで先行してこの先の林道の状態を確認に向かった。

平治谷から持経宿までは2.5kmほどだが続けて落石があり、まとまった場所が4ヶ所、間にもパラパラとある。大きい岩もあり4輪車は軽自動車でも通過は不可能だ。バイクは何とか間を通り抜けることが出来、持経宿に到着。無線で状況を2人に伝えてすぐに引

き返す。二人が落石の処理をしている現場に戻り、一緒に作業に当たる。この調子ではまだ2時間位かかるだろう。腕や肩、腰が痛くなってきた。疲れた、と言うよりそろそろ飽きてきた。やっと三差路手前の丸太擁壁が見えて、落石処理が終わりを迎えた。

やっと持経宿に到着、午後2時40分。ちょうど5時間だった。過去、白谷林道通過に5時間かかった記憶はない。たぶん最長記録だと思ふ。

持経宿に到着後、梶野君は水場の点検に、村吉さんは小屋周りを清掃。お正月飾りを撤去して帰路に着いた。帰り道はゲートまで35分だった。5時間の落石除去は効果絶大だ。



本日の参加者

乗り換えたフォレスター

橋梁工事現場

村吉さんはハンマーで石を割る際、破片が眼鏡に当たり、レンズ損傷。梶野車は3回ほど腹を擦り、沖崎のバイクは3度転倒した。幸い人的被害は無く、無事に下山できた。ヤレヤレでした。

帰りは白谷トンネルを通過して下北山村側に抜けた。国道の橋梁工事現場では欄干の基礎工事中だったが、通行止めは無く、作業員と少し話をして通過した。

(記：沖崎)

行動タイム

21世紀の森 09：06→09：26 白谷林道ゲート→14：47 持経宿 15：27→16：15 白谷林道ゲート